
たあ ~カントー萌えもんリーグチャンピオンへの成長記~ Other Story 信彦の心を縛る過去

三月語

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

萌えっ娘もんすたあ　　く　カントー萌えもんリーグチャンピオンへの成長記　　Other Story　信彦の心を縛る過去

【Nコード】

N31170

【作者名】

三月語

【あらすじ】

今、カントー地方を旅して回る主人公、信彦。彼が未だ悔やみ、拭い去ることが出来ない過去とは一体何か。

この話は、その過去についての話である・・・

萌えっ娘もんすたあ ㇿカントー萌えもんリーグチャンピオンへの
成長記ㇿの番外編です。

（前書き）

この話は、あらすじにもある通り『萌えっ娘もんすたあ ㇿカント
ー萌えもんリーグチャンピオンへの成長記』の番外編です。

それと、これは今まで私が書いた中でかなり悲しいものになってま
す。

また、残酷な描写もありますので、苦手な方は無理に読まなくても
構いません・・・

信彦の心を縛る過去。

それは、5年前のこと。

まだ信彦が13歳、ホウエン地方を旅していた時のことである。

） 海底洞窟 ）

「リカ！『リーフブレード』！！」

「了解！」

「くうっ・・・」

信彦は死闘を繰り広げていた。

元々、ジュカインのリカ、キルリアのリルカだけという少ない手持ちだった。

だが、それでもカイオーガを倒す直前までに至っていた。

「くっ、貴様っ・・・、貴様あつ・・・！」

そのカイオーガを目覚めさせたのはER（Earth Reborn）団のリーダー、海命。

「貴様はっ・・・、私の邪魔をどこまで続ければ気が済むのだ・・・っ！！」

「それは！お前がこんなふざけた行動をやめるまでだ！」

お互いに怒声を飛ばし合っていた。

「こ、この私が・・・、懺悔を・・・、しなければ・・・、ならないのか・・・!?」

「懺悔ではない、また海底で眠ればいいだけだ！」

リカがカイオーガに再びリーフブレードを行い、鳩尾に当たる。

「がっ・・・はぁ・・・っ!?」

一気に息を吐き出してしまうカイオーガ。

そのまま倒れ、再び眠りにつくことになった。

「貴様あ・・・！許さん・・・、許さんぞお！！」

海命はカイオーガが倒されたことに激高し・・・

「行けお前ら！あの憎きトレーナーの息の根を止めろ！」
『仰せのままに！！』

海命が繰り出したのは、クロバット、マタドガス、サメハダー、ルンパッパ。

「リカ！リルカ！迎え撃て！」
「わかった！」
「は、はい！」

そして、2VS4での激戦が始まった。

「だあぁっ！！」

「そんなもの、遅すぎる！」

「そのまま死ぬがいい！」

「そんなわけにはいかない！主のためにも！」

「だったらオレはこの弱っちそうなのを潰すぜ！」

「よ、弱っちそうなんて言わないでください！」

「皆の援護を私がする！」

リカがクロバットとマタドガスを、リルカがサメハダーを倒すことになった。

「はっ、相性が悪かったな！采配を間違えた主を恨みな！」

「わ、私は簡単にやられませんよ！？」

虚勢をはるものの、やはり怖いのがはつきりするリルカ。

「リルカ！無理に攻撃をしなくてもいい！私がこいつらを蹴散らすまで耐えてくれればいい！」

「は、はい！」

「私達二人に敵うとでも言いたいのか貴様は！」

「敵う敵わないは関係ない！倒すか倒されるか、そのどちらかだ！」

「そうね……。だったら、あんたはここで死ぬだけよ！」

そしてリルカはひたすらサメハダーの攻撃を回避し、リカはクロバットとマタドガスと激突した。

2時間後。

「くっ・・・、このままでは負けてしまう・・・っ！」

自分の萌えもんたちが押されていることに焦燥を隠せなくなった海命。

「かくなる上は・・・っ!!」

懷からナイフを取り出し・・・

「死ね、我らに逆らいし愚かな人間よ!!」

信彦に向かって突進した。

が、それを見逃さない者がいた。

それまでのこと。

リ力はただ一人、戦い続けていた。

「やはり・・・、1対2はきついな・・・」

「相性が悪かったな！」

「さあ、そのまま死になさい！」

「そんなわけには・・・っ!？」

一瞬嫌な気配を感じた為に辺りを見回した時、海命の懷から光るも

のが見えた。

「くっ、主が危ない！」

「あんたの主の許には行かせないわよ！」

「だったら、退かすまで！」

「そう簡単には退くものか！」

「主！逃げろ！」

遠くにいる主、信彦に向かって叫ぶり力。

「リカ・・・！？」

信彦が理科の叫び声を聞いた時・・・

死ね！我らに逆らいし愚かな人間よ！！

海命がナイフを手に突っ込んでくるのが見えた。

「貴様ら・・・退けっ!!」

「そんなわけにはいかない!」

「私は・・・、主を護る剣なんだああっ!!」

『ぐはあっ!!!?!?』

リカはクロバットとマタドガスに回し蹴りを放ち、二人を蹴り飛ばした。

「主は・・・、主は殺させるわけにはいかないんだ!」

そして、リカは稲妻の如き速さで信彦の許へ走りだした。

同時に。

「クロバット!? マタドガス!?!」

「今がチャンス・・・!! 『シグナルビーム』!!」

「うぐあああああっ!!」

サメハダーに『シグナルビーム』が当たった。

「こゝここで、負ける、わけには・・・っ!!」

そして、サメハダーは力尽きて倒れた。

「ご主人様っ!!」

そして、振り向きざまに信彦を呼んだ。

「しまった・・・っ！」

信彦と海命の距離は、回避するのが困難な距離に縮まっていた。

「死ねえええっ！！」

そして、海命はナイフを突き出した・・・

（信彦：ごめん、皆・・・、俺、先に逝くから・・・）

そして信彦は避けようとせず、目を閉じ・・・

グ
サ
ア
ツ
！
！

突き出されたナイフが刺された。

(信彦：・・・痛みが・・・無い・・・?)

が、信彦には痛みが無く、刺さっていない。

「あ、ある、じ・・・、だ、だいじょ・・・う・・・ぶ・・・か・・・
・!？」

「リカ!？」

「何っ!？」

刺されたのはリカだった。

ナイフは右肺に背中へと突き抜けるように、深々と刺さっていた。

「り、リカ！しつかりして！！」

「主を・・・、殺そうなどと・・・、ふざけた真似を・・・、するなあああつ！！！」

「がつ！？」

リカが繰り出した決死の一撃は、海命の胸を正確に貫いていた。

「そ、そんな・・・、バカな・・・、まさか・・・、まさ・・・か・・・っ！！」

「ご主人様！？」

今までクロバット達を介抱していたルンパツパが海命を見て悲痛な声を上げた。

「これが・・・、私・・・の・・・、怒りだ・・・っ！」

リカが拳を引き抜いた時、海命は既に絶命していた。

「貴様らも・・・、消えろ・・・！」

「あ、は、は、はいい！！」

ルンパッパは、クロバット達を抱え、逃げだしていった。

「・・・ガフツ!!」

そして、リカは血を吐いた。

「リカ! しっかりして! 死んだらダメだ!」

「あ、主・・・、私はもう・・・、ダメな・・・ようだ・・・」
「諦めちゃダメだ!」

「そうですよ! 死んだらダメです!」

リカを寝かせ、かつ支えるように、抱えるようにしている信彦とリルカ。

「ふ・・・、自分・・・の・・・最期は・・・、よく・・・、わかるものだ・・・」

「死んだらダメだ! 生きようとして! 死ぬことを考えないで!」

「い、今、回復を・・・」

「り、りる・・・か・・・、く、薬は・・・、もう・・・、遅い・・・」

「そ、そんな・・・」

愕然とするリルカ。

「あ、主、さ、最期に、たの．．．み．．．ことが．．．」
「リカ、頼みごとなら何でも聞くから、死なないで．．．」
「あ、主．．．には．．．、り、リルカと．．．、幸せに．．．、
なつて．．．、欲しい．．．んだ．．．」
「っ！！」

まさかりカの頼みが、自分と信彦の幸せだとは思わなかったために
驚きを隠せないリルカ。

同時に目からは涙が流れる。

「うん．．．、うん．．．！だから．．．、死んじゃ．．．ダメだ
よ．．．」
「よ、よか．．．った．．．。そ、それと．．．最後に．．．」
「な、何．．．？」

その最後の言葉を聞こうとする信彦とリルカ。

「り、リルカ．．．、な、仲良くして．．．くれて．．．、ありが
．．．とう．．．。そして．．．、ある．．．じ．．．」
「な．．．何？」
「い、今まで．．．、育て．．．て．．．くれ．．．て．．．、あ
．．．、ありが．．．と．．．う．．．」
「リカ！？リカ！？」

感謝の言葉を言いきって、そのまま腕が垂れた。

「リカあああああああ！！」

「うつ・・・くうつ・・・」

信彦は声を上げ、リルカは顔を隠すように手で顔を覆い、泣いた。

「嘘だ！目を覚ましてよ！ふざけてるんでしょ！？また軽口を言うてよ！」

「ご、ご主人様・・・、ひつく、リカは・・・、リカは・・・」

「うわあああああああっ！！！！」

海底洞窟にて、

ミシロタウンからの仲間だっ
たり力が、

海命と相打つ形で、死んだ。

その後、信彦はリカと初めて出会ったミシロタウンまで彼女の亡骸を連れ戻り、ミシロタウンにある丘にそつと埋めた。

「リカ・・・、ダメな主でごめんね・・・」

・ この言葉が、信彦がリカにいった最初で最後の懺悔の言葉であつた。
・

O
t
h
e
r

S
t
o
r
y

{
F
i
n
}

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3117o/>

萌えっ娘もんすたぁ ～カントー萌えもんリーグチャンピオンへの成長記～

2010年10月15日23時20分発行